

長崎市プロポーザル方式による長崎市新庁舎建設基本設計委託業務受注者選定審査会  
(第3回) 会議概要・議事録

■会議概要

○開催日時

平成29年5月27日(土) 11:00~19:30

○出席者

委員 宮原会長、今村委員、鮫島委員、玉井委員、中田委員、加藤委員  
事務局 野瀬企画財政部長、柴原企画財政部政策監、山北まちづくり部理事、  
赤倉大型事業推進室長、熊崎設備課長ほか

○会議次第

1 二次審査

- (1) ヒアリング時の質問項目について
- (2) 公開ヒアリング
- (3) 受託候補者の特定及び次点の選定について

○審議結果

受託候補者についてはA者、次点についてはD者を選定した。

■議事録

○ヒアリング時の質問事項について(11:00~11:45)

ヒアリング時の質問事項について調整を行った。

○公開ヒアリング(13:00~17:00)

各者によるプレゼンテーション後、次のとおりヒアリングを行った。

1 A者

- プレゼンテーション（20分） 内容省略
- ヒアリング（30分） 以下のとおり

質疑	応答
<p>長崎の地域特性や、景観・街並みをどのように捉えたのか。</p> <p>また、提案の中で、「長崎らしい市庁舎」であると考えポイントを説明してもらいたい。</p>	<p>長崎は、江戸時代に唯一世界に開かれていた窓口であったことから、日本で初めてというものが大変多くある。</p> <p>このような歴史性などから、先進的な技術を使い、開かれた交流の場となるような庁舎にしたいと考えている。</p> <p>また、長崎のまちを見たときに、寺町から浜町に至る古い街並みや、長崎駅など長崎港に面した地区がそれぞれまとまりとしてあるが、まちの全体像としてはわかりにくい印象がある。それは、その間に台地があり、双方を分断していることによるものではないかと思う。</p> <p>今後の長崎のまちづくりを考えたときに、古い街並みの地区と長崎駅周辺地区とのつながりを作り出すことが大事だと考えており、そのようなまちづくりを進めることを提案させてもらっている。</p> <p>長崎らしさという点では、少し煉瓦を使ったり、広場には石畳などの素材を使うことを考えている。</p> <p>また、市民が主役のまちにしていくという長崎市の方針に照らし、市民が活動している姿が見える庁舎にしていきたいと考えている。</p>
<p>CLT 外殻ワッフル構造と免震の利用が特徴的であるが、CLT とすることによる層間変形角の抑制効果を説明していただきたい。</p> <p>また、CLT は木質構造であるが、長期耐久性やメンテナンスについても説明いただきたい。</p>	<p>通常、鉄骨造高層の免震建物で建物の層間変形角が大きい場合だと1/200程度になるが、今回は25~30%程度の固さを付加することができ、結果として1/400程度に抑えられると考えている。これにより、間仕切りの損傷等を抑え、防災拠点としての機能を確保できると考えている。</p> <p>木質パネルの耐久性については他の庁舎事例でも検討を重ね、ガラスが木質パネルの外側にあり雨には触れない構造としている。</p> <p>また、ガラスとの隙間に熱や湿気が溜まらないよう、空気抜きも確保するなど、耐久性には十分配慮している。</p> <p>メンテナンスについては、経年的な木の収縮等を継時観察したが、現時点において大きな問題は発生しておらず、ささくれ等については表面にクリアを塗ることで対応したい。</p> <p>また、万一破損した場合等においても、1枚当たりのパネルの大きさを0.9m×2.8mとする予定であり、施工性及び取り替えやすさについても配慮している。</p>
<p>LCC 削減に係る内容と削減目標を示してもらいたい。</p> <p>また、ZEB Readyに係るこ</p>	<p>LCCの削減率は、25%程度を考えている。</p> <p>ZEB Readyは56%程度の削減としている。これまでの実績では45%から50%近い程度までしかないが、今回は大きな建物で</p>

<p>れまでの削減実績を示してもらいたい。</p>	<p>スケールメリットもあり、削減項目が多くあることから、50%を超える削減が可能と考えている。</p>
<p>ワンストップサービスについて平面計画上どのように配慮しているか。 また、休日及び夜間の市民利用をどのように考えているか。 議会の委員会室の市民利用について、これまでに実例があるか。</p>	<p>ワンストップサービスについては、手続きに時間を要しないクイックな窓口を南側に配置し、時間がかかる相談業務とは配置を分けるよう提案している。 また、休日等についても南側部分をオープンに利用できるように考えており、市民利用の会議室についても低層部に置いて利用しやすい配置にしている。 議会の委員会室の市民利用については、現状長崎市において4部屋あるところを、6部屋配置しており、2部屋は自由に使えると考えている。</p>
<p>地（知）縁的コミュニティを意識した「市民検討会議」の設置とあるが、すでに市民会議を長期間実施して議論がなされた中で、さらに議論を重ねる必要があるのか疑問がある。 数回のワークショップで今まで以上に市民の声を集約するのはかなり困難と思うが、これまでの経験で、有効だった具体的な手法があれば説明いただきたい。</p>	<p>過去の議論の経過は承知しているが、それは建築に落とし込むレベルの内容ではなかったと考えている。これまでの経験の中でも、提案のような検討会議を設置して大きな議論をした後にワークショップを開催したことがあり、有効であったと考えている。</p>
<p>庁舎南側の通りに歩行者を通して東西方向へのにぎわいをつくりだす提案だが、駐車場や車寄せに入る車の動線が歩行者動線と交錯する点をどのように考えているか。</p>	<p>南側はオープンスペースとする予定で、休日、夜間等も歩道を通らずに敷地内を通ることもできる。 福岡市の天神西通りの様に、歩行者と車が交錯することで賑わいが生み出されている通りもあり、安全性に配慮した上で、そのような通りになっていいのではないかと考えている。</p>
<p>議場と議会フロアの提案について、考え方を説明してもらいたい。</p>	<p>議場は大空間で高層棟には馴染まないことや、今の長崎市議会もそうだが、広場に面し、市民に近いところが良いということ、また、できる限りワンフロアに収めることを考えたものである。</p>

## 2 C者

- プレゼンテーション（20分） 内容省略
- ヒアリング（30分） 以下のとおり

質疑	応答
<p>長崎の地域特性や、景観・街並みをどのように捉えたのか。</p> <p>また、提案の中で、「長崎らしい市庁舎」であるとするポイントを説明してもらいたい。</p>	<p>市民の活動が表出することが大事だと考えており、新庁舎では、アクティビティが生まれるものを歩道側に配置し、通りから市民の活動や交流が見えるような形にしたい。</p> <p>また、長崎市は美しい景観を有するまちであり、視点場からの景観に配慮し、山の稜線や海が見えるよう、庁舎は極力低層にした方が良く考えている。</p> <p>長崎駅から寺町方面にあまり人が流れないと伺っているが、その中間地点に一つ魅力を持たせられないかと考えており、例えば庁舎内に展望機能を置くことで観光客が訪れるようになるのではないかと考えている。</p> <p>さらに、長崎市は緑があまり多くないと聞いていることから、緑を積極的に取り入れた庁舎を提案させてもらった。</p>
<p>コスト削減のため免震装置設置数を低減されているが、効果はどの程度か。また、これにあわせて柱の本数が減ることに対し、柱の耐震性能についてどのように考えているのか。</p> <p>巨大地震に対して、免震層クリアランスを抑えるための減衰機能はどのように確保するのか。</p> <p>次世代免震ということで、免震層にストッパーを付ける必要性について説明してもらいたい。</p>	<p>熊本地震では、現行の建築基準法が定める大地震レベルの2倍や3倍の地震動が観測されている。</p> <p>通常の免震建物では60cm程度のクリアランスをとるが、これは法における大地震レベルで40cm程度動くことを想定していることによる。しかし、今後は、法の基準を超える地震でも対応できるよう踏み込んで設計していく必要がある。</p> <p>従来型の免震建物では、小さい支承を多く並べるが、まずは大きな支承にして数を減らし、一つ一つの変形能力を上げることで想定以上の地震にも対応できるようになる。ただし、この場合、免震層が固くなりすぎる事象が起きる。そのため、ある程度までの地震では「すべらせ」、想像を上回る地震ではストッパーが働き引き戻す力を付与するというものを提案している。</p> <p>従来型の免震構造よりもさらに高度な免震構造を提案しているが、コスト面においては同等程度に抑えられる。</p>
<p>ZEB Readyに係るこれまでの実績を示してもらいたい。</p> <p>窓口部門における執務環境の提案について、これまでの実績や評価を示してもらいたい。</p>	<p>ZEB Readyについては、35~40%程度削減の実現事例があり、現在も検証を進めている。</p> <p>提案した窓口部門を2層に分けることは、これまでに経験はないが、窓口とバックオフィスでの事務処理状況を確認する中では、スムーズな対応が可能だと判断している。</p> <p>広場やホール的な市民利用空間も重要であり、そのためには窓口をコンパクトにする必要がある。さらに、窓口間の動線を短くするという考えの中では、今回提案した2層使いは有効だと考えている。</p>
<p>市民利用空間が、低層と12階</p>	<p>12階に行くためにはエレベーターを利用する必要があるが、各階</p>

<p>(最上階)に分かれているが、市民の移動を含めた利用形態をどのように捉えているか。</p> <p>「まちぶら広場」と「まちぶらホール」は大きな空間となっているが、空洞部分について構造的には問題ないか。</p>	<p>にエレベーターホールを置くことでセキュリティラインは確保できる。</p> <p>エレベーターについては、来庁者用と職員用を同数設置する想定であることから、縦のスムーズな動線も確保できると考えている。大空間については、3階と4階に大きなトラスをかけることと、免震構造を採用することで安全性を確保している。</p>
<p>市民のプライバシーの確保と、職員と相談者の安全確保をどのように考えているか。</p> <p>短期間で担い手育成を含めたワークショップが提案されているが、これまでに実績があれば説明いただきたい。</p>	<p>地下駐車場を設置することで、来庁者はエレベーター利用がメインになると考えているが、2階フロアのエレベーター付近にプライバシーの配慮が必要な窓口を設置してはどうかと考えている。</p> <p>パブリックスペースについて、市民主体の運営管理に関する体制づくりをサポートしている事例はこれまでも数多くある。</p> <p>短期間で担い手育成までできるかという点については、まずは道筋をつけることが最も大事であると考えており、ワークショップでその担い手を発掘するところからはじめ、長いスパンの中で人材を育成していくことは十分可能であり、そのためのサポートをすることも可能であると考えている。</p>
<p>マッシブな箱型の提案で、グリーンボックスというように庇緑化がデザイン的にも特徴的だが、日照の少ない北側も含めて緑化は本当に可能か。どのような方法、樹種を想定しているのか。</p>	<p>庇の先端に固定したプランターを並べて植栽し、メンテナンスが容易なツタなどを想定している。</p> <p>散水は地中に流すことを考えており、蒸散によりクールダウンにも貢献できると考えている。</p> <p>また、メンテナンスに配慮し、安全性を確保したバルコニーを設計の中で考えていきたい。</p>
<p>議場と議会フロアの提案について、考え方を説明してもらいたい。</p>	<p>開かれた議会を考えながらも、審議の際には、ルーバーやブラインドなどで視線を遮ることができるような議会としたい。</p> <p>一方、使用が無いときにはガラス張りで議場内が市民の目に触れることで、議会を身近に感じられるのではないかと考える。</p> <p>内装については、例えば赤レンガや木材を使うなど、温かみがあり、長崎の未来を考えるに相応しいものにしたいと考えている。</p>

### 3 D者

- プレゼンテーション（20分） 内容省略
- ヒアリング（30分） 以下のとおり

質疑	応答
<p>長崎の地域特性や、景観・街並みをどのように捉えたのか。</p> <p>また、提案の中で、「長崎らしい市庁舎」であると考えポイントの説明を説明してもらいたい。</p>	<p>新しい軸というものを提案しているが、賑わい拠点を繋ぐ軸で、これまで桜町通りがピックアップされてこなかった。新庁舎が建設され、新たな文化施設が建設されることを考えると、公共サービスの中心エリアとなり、桜町通りを軸として整備し、人の流れをしっかりとっていく必要があると考えている。</p> <p>我々としては、特徴を持った庁舎とし、市民に親しんでいただくことで、長崎を代表する建築に育っていけばという希望を持っている。</p> <p>これまでの実績において、建物が人に使われ親しまれることで、その街を代表する建築に育ったという経験がある。長崎市の新庁舎についても多くの市民に親しまれ長い間使われることで、次の世代に引き継がれていくような長寿命の建築であるべきと考えており、それによって自ずと長崎らしさが育つことを期待しており、そのような庁舎をつくりたいと考えている。</p>
<p>上部層の制震と免震を組み合わせているが、巨大地震に対して、免震層の減衰機能はどのように確保するのか。</p> <p>地下1階の柱頭免震の提案について、クリアランス等の具体的な説明をいただきたい。</p>	<p>免震層のクリアランスは40cm～50cm程度とし、十分なエネルギーの吸収をさせたいと考えているが、実際の設計では地震波をつくり、上下の組み合わせを配慮したうえで数値を決めていきたい。</p> <p>地下1階の柱頭免震を提案しているが、エレベーターや機械のシャフトはそこを貫通することから、建物が動くとき干渉しやすくなる。安全性を確保するために設計では十分な配慮をしたいと考えている。</p>
<p>一次エネルギー消費量の削減について、これまでの実績を説明いただきたい。</p> <p>桜町通りを軸にしたいということであるが、併せて提案されているガーデンウォークの考え方についても説明いただきたい。</p>	<p>一次エネルギー消費量については基準値から40%削減としているが、これまでの庁舎実績を踏まえて設定しており、達成できる数値であると考えている。</p> <p>南側のガーデンウォークは、市民会館から新たな文化施設に至る大事なストリートだと考えており、休めるような場があり、大きな桜町通りと性格を分けてはどうかと考えている。</p> <p>一方、桜町通りはトンネルもあり、現在、人が歩ける状況にないが、長期にわたって緑の軸として整備できればと考えており、新庁舎の建設を契機として、歩いて楽しめるストリートにできたらいいと考えている。</p>
<p>桜町通りは軌道と車道整備のために設けられた経緯があり、提案のような整備は難しいと感じているが、どのような見通しを立てているのか。</p>	<p>桜町通りについては、まちなか軸につながる軸線として、賑わいを生み出すためにも非常に重要であり、長期的な都市計画が組めないかと考えている。</p> <p>ガーデンウォーク側の高層棟は指摘のとおりで、多少セットバックする予定にしているが、それであっても高層棟の存在感は、桜</p>

<p>ガーデンウォーク側に高層棟を寄せており、この通りは両側を高い建物で挟まれるため、提案とは違ったイメージになるのではないかと思うが、どのように考えているか。</p> <p>建物の低層棟が北東部に配置されており、冬場は完全に陰になる。その部分に緑の庭園や市民利用空間が配置されていることに疑問を感じている。また、市民利用空間が5層にわたっており、利用しにくいイメージがあるが、休日・夜間の利用も含めてどのように考えているか。</p>	<p>町通りに比べると大きいと思う。ただし、建物の軒線を感じさせることで、中遠景で見るとは趣きを変えられる。高層部のファサードと併せ、低層部の存在感をしっかりと出せるよう十分に検討していきたいと考えている。また、樹木の配置により、緑による日陰効果とヒューマンスケールを出していきたい。</p> <p>市民利用空間が5階にわたっている理由は、屋上庭園を大事にしたいと考えたもので、他都市で立派な屋上庭園に育った実績もあり、これを市民に使っていただき、その様子がショーウィンドウの様に通りなどから見えることで、市民に使われる市庁舎だということをオープンにできたらよいと考えている。</p> <p>管理については、他都市でも、窓口部分をシャッターで区切ってセキュリティーを確保し、大きな空間を休日に開放している事例があり、今回もどこまで開放できるか設計の中で検証しながら進めていきたい。</p> <p>屋上庭園の部分は高層部に対して完全に北側となるわけではなく、午前中は十分に日照が取れる配置になっている。また、事例でも同様の高層部と屋上庭園の配置もあり、環境に応じた樹種を選定していくことで、十分可能な提案と判断している。</p>
<p>市民のプライバシーの確保と、職員と相談者の安全確保をどのように考えているか。</p> <p>市民参加や市民協働について、他都市での経験があるとのことだが、ワークショップの手法等について説明いただきたい。</p>	<p>市民参加のあり方として、経験の事例では市民協働スペースを2階部分に配置し、行政と市民が協働で行える空間を設けているが、市民と行政と一緒に使う機会は数が多くないので、普段は様々な市民団体の活動の場として使われているようである。事例であるように、市民団体のイベント等に活用され、ガラス張りになっていることで、その様子を他の市民にも見てもらう形になっており、それが庁舎の活性化に寄与できると考えている。</p> <p>提案における配置は大まかな考え方となっているが、相談室等はワンストップロビーから少し離れた所に配置することで、プライバシーへの対処を行っていきたいと考えている。</p>
<p>議会棟の上部や、屋上展望ロビーのデザインの意図を説明してほしい。</p> <p>議場と議会フロアの提案について、考え方を説明してもらいたい。</p>	<p>建物を印象的、特徴的なシルエットとする上で、高層棟においては展望ロビー、低層棟においては議会棟と考えており、その中で議会については市庁舎に埋没するのではなく、存在感を示す必要があると考えたものである。</p> <p>我々としては、開かれた議会としてパブリックな部分からアクセスできるような位置につくっているが、議会を他の用途に使用したり、どのような仕様としていくかは、市において十分に検討いただき、その内容を反映した設計としていきたい。</p>
<p>アーバンデザイン及び新市庁舎計画の実績及び経験を具体的にどう生かすのか。</p>	<p>30年～35年にわたり、代官山の集合住宅を6期に渡って整備してきたが、住宅だけではなく商業地やオープンスペースを充実させることで人が回遊し、賑わいのあるまちに育てることができた実績がある。</p>

#### 4 E者

- プレゼンテーション（20分） 内容省略
- ヒアリング（30分） 以下のとおり

質疑	応答
<p>長崎の地域特性や、景観・街並みをどのように捉えたのか。</p> <p>また、提案の中で、「長崎らしい市庁舎」であると考えのポイントを説明してもらいたい。</p>	<p>長崎駅方面から一旦上がって、新庁舎に下がって来たときに、印象的な形で見せたいという考えから、まず、あじさいテラスの緑が目に入り、緑の広場があるという予感をさせて引き込もうというシークエンスをイメージしている。</p> <p>長崎市庁舎らしいという点では、こんにやくレンガが発祥であることから、レンガを外部の表面に使い、その色に合うように軒の部分に木を使って、自然と一体の温かみを全体の素材感でアピールしたいと考えている。</p> <p>また、全体が階段状にあがっている構造が、坂のまち長崎にふさわしく、坂を感じさせる部分が長崎らしさと考えている。</p>
<p>柱としてCFTを採用しているが、柱の耐震性能がそうでないものと比べてどれほど向上しているのか説明いただきたい。</p> <p>巨大地震に対して、免震層の変形制限をどのような減衰で確保するか、あるいはクリアランスをどの程度確保するのか説明いただきたい。</p>	<p>広場部分を市民に広く開放するにあたり、柱の本数を少なくするため、CFT柱とすることで強度を同程度に持っていきたい趣旨で採用している。</p> <p>免震については、建設予定地の地盤は固く、海溝型の長周期からも離れていることから、比較的変形は少ないのではないかと思うが、予期しない地震に備えてしっかりとした変形量を取りたいと考えている。また、提案には書いていないが、ヘルスマニタリング等の導入で、建物が使えるか即座に判断できる機能も考えていきたい。</p>
<p>ZEB Readyに係るこれまでの実績を示してもらいたい。</p> <p>1階フロアの諸室の配置の考え方について説明いただきたい。</p> <p>あじさいテラスは、階段での移動が必要になると思われるが、高齢者や障害者への配慮はどのようになされているか。</p>	<p>ZEB Readyの指標は最近出てきたものであり、現時点で実績はない。ただし、長年、基準エネルギーの計算を行ってきており、今回の事案についてケーススタディを行い、これらをもとに数値を出している。また、実績調査を行ってきた中では、実質の数字で50%削減した実績は有しているため、自信を持った数字を提案している。</p> <p>特に今回はエコポイドにより空調に要するエネルギーを大幅に削減して、光熱費を下げたいと考えている。</p> <p>機械室については、防災面の配慮や根切り量縮減のため、地下ではなく1階に配置している。窓口については、繁忙期はギャラリースペースや会議室等を使用できるプランとしている。ただし、ワークショップなどで窓口中心にしたいということがあれば、設計の中で対応も可能なフレキシブルな提案にしている。</p> <p>テラス同士は階段でつながっているが、建物内にあるエスカレーターやエレベーターを利用してテラスに出ていただくことで、どのような方でも利用することができる。</p>
<p>クスノキ広場は、広い面積をと</p>	<p>公会堂前の広場は、おくんち以外でもいろんなイベントで市民に</p>



<p>っているが、どのように使うイメージなのか。</p> <p>あじさいテラスは複雑な構造と広い面積で費用的にも掛かると思うが、どのくらいの収容人数があり、どのような使われ方を考えているのか。</p>	<p>親しまれてきた広場であり、クスノキ広場にはそういう機能を保持したいと考えている。新しいおくんちの場所である中央公園、市民会館前の広場と連動して市民をつなぐ場所になると考えている。</p> <p>また、防災機能としても、このような外部空間があった方がよく、さらに、あじさいテラスの下は雨もかからず、災害時にも役に立つ空間になっている。</p> <p>イベント時には観客席があった方が、より広場が使われるケースが多いことから、あじさいテラスを提案しているが、ワークショップで別の所に費用をかけたほうが良いなどの意見があれば対応も可能である。</p> <p>なお、クスノキ広場にイスを置くとすると 1,200 席くらいになり、あじさいテラスもかなりの人数を収容できることから、多様なイベントに対応でき、屋外に新しい文化スペースができると考えた。</p>
<p>全世代のワークショップを開催するとあるが、募集はどのように行うのか。</p> <p>樹木の管理を市民協働でとあるが、協力をどのようにお願いするのか。同様の事例が他にあればお示しいただきたい。</p> <p>外装がレンガになっているが、耐久性やメンテナンスについて説明いただきたい。</p> <p>南側道路が車専用道路というイメージを持つが、どのように考えているのか。</p>	<p>全世代のワークショップは、これまでも経験があり、ホームページでの告知のほか、大学等の学校と連動することなどが重要になる。</p> <p>駐車場の入口を南側に置いているが、これは、電車通りを入口とした場合、交通渋滞を招く恐れがあると考えたことによるものだが、ガラス張りでクスノキ広場も見え、裏側という印象にならないようにできればと考えている。</p> <p>レンガについては、プレキャストコンクリートに打ち込みを行うことで剥離の問題はない。また、レンガ自体はセラミックで耐久性もあり、提案している色は汚れも目立たない色であり、清掃が大変なガラスに比べてもメンテナンスが容易であることから採用している。</p> <p>樹木の管理については、年 10 回程度のメンテナンスが理想的だが、我々は、長崎において実績のある植栽に精通した方と共同しようと考えている。実際、研修を実施しながら、参加いただいた方々に年に 10 回ぐらい維持管理に協力をいただいて、市民活動を盛り上げている事例もあるので、今回もそのような活動に結び付けていきたいと考えている。</p>
<p>外壁やあじさいテラス（軒蛇腹など）のデザインの意図を説明してほしい。</p> <p>ワークショップにおいて市民の意見を取り入れながら設計を進めたいとの説明があったが、市民を説得してでも設計し</p>	<p>高層棟は、レンガを採用し、遠くからでも市役所と認知できることを意図している。低層棟は、お寺や神社が軒裏に垂木を使って木を見せるイメージで、下から見上げたときに温かみのあるデザインとしている。</p> <p>いつも親しまれている広場であれば防災時にも安心して集まれるため、これからの市役所は窓口等の接点だけではなく、市民に親しまれ、開かれた広場があるという雰囲気、全体の中でも重要</p>

ていきたいものがあるか。	だと考えている。
コミュニケーションツールとして巨大模型やBIMを活用する提案となっているが、限られた予算の中で対応可能なのか。	<p>巨大模型の材料は、完成模型とは違い安価なものを使用する。また、学生の協力を得ることで、世代間の橋渡しが期待でき、費用をかけずに効率的にワークショップができる。</p> <p>BIMについても簡易型のものがあり、それほど費用をかけずに使用することが可能である。</p>
休日・夜間も含めた市民利用について、空間配置等の考え方を説明してもらいたい。	<p>最上階のレストランは長崎の建物の中でも特別な展望が確保できるため、イベントもでき、市民利用もできるような特別な場所にしたいと考えている。</p> <p>低層部では、例えばテラスの階段を客席として使用するイベントなども開催できるなど、部屋にしない所も市民利用もできる提案であり、低層部全体として、広場、テラス、会議室などが連動した市民利用のスペースとして考えている。</p>
議場と議会フロアの提案について、考え方を説明してもらいたい。	<p>議会フロアはテラスに開かれており、テラスとの連動が可能であり、市民が傍聴席以外からも中の様子を見ることができる。</p> <p>我々の経験の中では、議会が開かれていない時に市民コンサートなどに利用されているケースもあり、そのような利用もできたら良いと考えている。</p>

○受託候補者の特定及び次点の選定について（17：30～19：30）

※以下、A 者から提出された提案を「A 案」、C 者から提出された提案を「C 案」、D 者から提出された提案を「D 案」、E 者から提出された提案を「E 案」と表記する。

会長 先ほどのプレゼンテーション及びヒアリングを受けて、最終審査を行う。  
各委員において、長崎の街並み・景観、ライフサイクルコスト、市民参画、メンテナンス、長崎らしさなどについて、それぞれ質問を行ったが、まずは、それに対する総合的な意見交換を行いたい。  
A 案から順次、どのような評価を行ったのか意見を述べていき、情報の共有を行った後に各自採点を行い、受託候補者等を選定することとしたい。

（A 案に対する意見）

委員 A 者は、まんべんなく、バランス良くヒアリングの対応をしていたという印象を持っている。  
提案を見る限り庁舎南側の配置は苦しいイメージがあったが、昔の町の単位を大事にするコンセプトで、割と小ぢんまりとした空間を、通りを挟んだ両側でつくっていくという考えは良いのではないかと思う。  
2 ページに基壇部のイラストがあるが、ここをヒューマンスケールでつくれば、狭い空間の中に大きなボリュームの建物が建っている割には、建物の裏には見えない空間ができるのではないかと思う。  
木製パネルの使用についても、技術的な裏付けのもとに配置パターンが考えられると思うが、それが景観面でも建物に表情をつけることができる。  
突出した印象はないが、バランスのとれた提案だと思う。

委員 主に市民参加について質問をさせていただいたが、きっちり回答をいただけた提案者とそうでない提案者があった。  
その中で、A 者やC 者については、ある程度市民参加のプロセスについてイメージを持っているのではないかと感じた。  
庁舎南側の通りについて、歩車の動線が輻輳することを肯定するような説明をされていた点については疑問を感じる部分があった。  
全体的には納得のいく説明がなされていたが、機械室を 5 階に配置する案については他者とは違う提案なので、その点については他の委員の意見をお聞きしたい。

委員 機械室の配置は、地下と比較して水害のリスクが低減されるため、防災面での配慮と思われる。

委員 外殻ワッフル構造の耐久性などはヒアリングによって確認できた。  
1 階の配置について、いろいろなひろばが設けられているが、動線が複雑でバラバラしたイメージがある。  
庁舎南側の通りの歩車動線に関し、天神西通りの例を引き合いに出された点については同様に疑問を持った。  
機械室を 5 階と 20 階に配置しており防災面では良いと思うが、機器の入

替えやメンテナンスを考えたときにはデメリットもある。

委員

構造的な観点から意見を述べるが、構造に関する説明について及第点が取れる提案であったと感じた。

数値的な説明もでき、外殻ワッフル構造のメンテナンスに関しても資料に沿ってしっかり説明していただき、技術者の対応能力もあった。

また、小さい図ではわからなかったが、説明を聞いて、低層部についてもよく考えて処理されていることが確認できた。

委員

A案が他の提案と比較してよかった部分は、庁舎南側の通りにまち並みをつくるという考えから低層部分を配置していることや、その1階から3階は休日や夜間にも市民が利用できる空間として、他の空間と明快に分けられている部分は評価したい。

南側の通りについては、主に市役所へ来庁する車と、ここを通り抜けて国道の方に行く人の動線が中心になり、それほど混雑する状況にはならないと思われる。天神の例を出した説明をされたが、この場所の交通量の予測を踏まえた説明をする方が適切であったと考える。

大きい空間の利用ではD案も似ているが、D案では人が集まるメインの部分が昼間は陰になるため、建物の配置において、現状を理解したものとなっているのはA案の方だと考える。

委員

ランドマーク的な捉え方として、庁舎としての雰囲気はどうだろうかという印象を持っている。

また、木を使うことでメンテナンスにコストを要するのではないかと、経年劣化によりファサードに変化が生じるのではないかと、懸念が生じる。

今回4者から提案をいただいているが、A者とC者はチームプレイで組織的に対応するイメージで、D者とE者は建築家グループという印象を受けた。今後の長崎市との打ち合わせ、設計変更の可能性、市民協働の取り組み方などを考えたときには、後者の方が柔軟に受け止め、デザインに反映していけるのではないかと感じられた。

委員

木材は確かに紫外線に弱いですが、木質パネルはガラスの内側に設置するとの説明があり、紫外線を透過しないガラスもあるので、それで回避すると考えていた。

また、木材と言ってもCLTであり、接着剤で固められていることから、どちらかと言うと工業材料に近いものと思ってもらってよいと思う。

#### (C案に対する意見)

委員

ワンフロアの面積が広く、議会機能をワンフロアの中で区切っているのが、市民アクセスと議員アクセスがうまく処理しきれない印象を持った。

グリーンボックスが提案の中での売りだが、正直難しいという印象を持っている。

エントランスホールと広場が一体的な大空間となっており、ここを大きな

梁を入れて支えるとの説明であったが、梁の上のボリュームが相当大きいことから、やや構造的な不安感を拭えないと感じた。

委員

構造については意欲的に検討されているが、大きな径の免震装置については、1,200mmくらいの直径でも国内に試験装置がなく、中国で実験を行っている状況であり、さらに大径のものを使うのだろうかということを感じた。その中で、すべり支承とストッパーと免震装置の複雑な構造になっており、これも大径になると、おそらく国内で実験できるところはないので苦労するのではないかという心配がある。

委員

一方で、これが実現できれば性能がかなり上がって、熊本地震クラスの大変形にも耐えられると思うし、チャレンジしたいという意欲を感じた。環境面に関しては実現性のある数値をあげており、誠実な説明をされているという印象を受けている。

また、1階あたりの面積を広くとって使いやすい執務空間にするという提案で、使い勝手については一番良いのではないかと感じた。また、広場からまちぶらホールへのつながりも市民の利用を考えるといいスペースになっており、構造や外観、緑の話を除けば、最も良い提案ではないかと感じている。

委員

使い勝手やコストを考えると、ワンフロアが広いという点、また、低層に抑えている点は評価できるが、その分無理が生じている部分もあると感じている。

市民参加については、担い手育成までできるとの説明をされたが、実現性には疑問があり、中途半端な印象を受けた。

市民のプライバシーの確保もあまり検討されていない印象を受けたが、2層式という考え方はわかりやすく、仕事もしやすいし相談対応も行いやすいことから、良い考えではないかと思う。

委員

緑化については、ツタと地被類を考えているとの説明であったが、それではボリュームも出ず、提案のようなイメージにはならないと感じた。

広場については、現在の広場と同規模の広さを確保することによって、使い方の具体的なイメージはないが、使い方によってはピロティ部分を含めて使い勝手が良いものになるのではないかと思う。

敷地の真ん中に建物を配置していることで外構部分に特徴が出にくく、ベースをシンプルに考えているという印象を受けている。

委員

執務フロアのレイアウトで、執務空間の奥行きが深いほうで17mとなっているが、執務空間はできるだけ照明を補助的に使用して、採光を多く取り入れた方がランニングコストを抑えられるし、窓から離れるほど執務環境が悪くなることから、奥行きが深すぎるのではないかと感じる。低層にしてワンフロアにこだわったことで、執務空間としては大きすぎるのではないかという印象を受けている。

委員

印象として、C者は技術者集団で、技術経験も豊富でよく理解されていると感じた。

メガフロアという点では、類似した新県庁舎を視察したことがあるが、真ん中に打合せコーナーがあり、両サイドが執務空間になっている中で、空調等も含めてよく考えられたもので、メガフロアへの対処も可能ではないかという印象を持っている。

(D案に対する意見)

委員 高層棟・低層棟のシンプルなデザインの中で変化をつけていきたいという説明であったが、具体的なイメージがわからなかった。また、議会を埋めしないために特別なデザインをしたということだが、市民の方がどう見るのだろうかと感じた。

通りに賑わいを生み出したいということを強調されていたが、それを誘導するようなデザイン上の工夫までは説明がなく、分かりにくい部分が残った。

形としてはA案に似ているが、高層棟の配置を考えたときにはA案の方が相対的に良いと感じている。

委員 説明を聞いて納得できる部分が多く、観覧者の反応を見ると、D案の説明が最も聞き入っていたように感じたが、質問に対しては明快な回答ではなかった。

議会については特徴を出したいという意図を感じた。

全体として非常にすっきりしたデザインで自信を持って提案しているという印象を受けたが、具体的なところがよく分からない部分もあった。

委員 最初提案を見たときに特徴や独創性がどこにあるのか分からなかったが、今日の説明を受けてよく理解できた。これまでの実績を交えながらの説明があり、ある程度任せられるなという印象は受けている。

どちらに正面性を持ってくるのかという点について若干疑義は残るが、それなりにしっかりとした空間になるのではないかと思う。

市民に利用してもらえる庁舎にしたいということを強調して説明されており、その点については市民も納得しながら説明を聞いていたのではないかと。ただ、市民が利用する空間については、上下に分散しており、もう少し工夫できないかとは感じている。

委員 プレゼン方法について、良い印象を受けなかった。

構造に関しては、制震コアチューブを採用しているが、ダンパーは揺れたときに減衰効果が発揮されるものであり、下部に免震装置もある中で制震をプラスしていることは原理上理解に苦しむ。

また、クリアランスに関しても40~50cm程度との説明があり、巨大地震への備え、余力は十分でないように感じた。

委員 内部空間での市民が利用するスペースが多層に分かれており、イベント等に活用する場合に使い勝手が良くないのではないかと。

また、屋上庭園については午後から陰になる配置で、育つ樹種も限られることなどから、提案には少し無理があるのではないかと思う。

ガーデンウォークについては緑の小路にしたいという説明があったが、この通りは、A 者が提案したようにタウンウォーク（街歩き）のイメージが適しており、捉え方が違うのではないかという印象である。

行政と議会をつなぐという点で、形の上でも議会を明確にしたという点は評価できる。

委員

D 者の説明や提案の内容は、たいへんよく理解できた。

D 者は、非常にデザイン力がある印象で、空間の質のイメージを的確に表現しており、相当に力量があるグループだと評価している。

代官山での実績を説明していたが、長崎駅周辺の整備や県庁舎の移転など、今後、長崎のまちが変わっていく中で、アーバンデザインの豊富な経験を活かして、違う視点でまちを変えてくれそうな期待感が持てた。

30 年後、50 年後を考えたときに、とてもいい建物だという評価につながる予感を感じさせ、デザインにチャレンジしながら、市庁舎がどうあるべきかということ謙虚に受け止め、前向きにアピールしていた点は非常に共感できた。

また、議場の提案についても空間的に優れている印象を受けている。

#### （E 案に対する意見）

委員

デザイン的には、あじさいテラスにこだわりすぎている感があり、層が多すぎると思う。また、広場でのイベント時に観覧場として使用した場合に、この形状では面積の割に収容力はないものと思われ、コストと比較すると大きな効果が得られないと考える。

高層部の外壁について、こんにゃくレンガのイメージを強調して説明されていたが、こんにゃくレンガ風の軽量のものでデザインを出す考えもあるが、本物のレンガを使えば重量があり下部構造への影響も大きいと思われる。

市民が使う空間として 1 階部分にカフェ、最上階にレストラン、3 階、4 階に会議室の配置があるが、あじさいテラスやクスノキ広場に大きなウェイトをかけているため、市民がいろいろな用途に利用できる空間について検討が十分ではないと思う。休日、夜間の利用も会議室くらいしかないので、市庁舎に賑わいが持てるのか疑問を感じる。

委員

提案の中で CFT 柱を全体に使っていると勘違いして評価していたが、実際には一部しか使っていないとのことだった。そうであれば 3 階分程度の荷重であることから、大きな軸力もなく処理は容易であるため、この部分は特別な提案ではなかった。

委員

あじさいテラスにおける上下移動の方法について、階段以外にも建物内のエレベーターやエスカレーターで移動できる旨の説明だったが、エレベーターは離れた位置にあり、テラスの上下移動に関する配慮に欠けている印象を受けた。

委員

説明は丁寧にしていただいたが、このデザインである必然性を感じること

ができなかったのは残念だった。

レンガ壁も、ブリックホールくらいの大きさならいいが、16階の建物では色とボリュームが多すぎる。

市民参画については、模型をコミュニケーションツールとしながら、参加型で意見をもらっていくという点については評価したい。

プライバシーを重視したカウンターづくりといった提案はE者だけだったので、この点についても評価したい。

委員 テラスで造形に特徴を出しているが、高層部の断面は正方形でボリュームがあり、低層部の派手なデザインとの対比はあまり良く感じられない。

ワークショップを対話式で行い、出された意見をデザインに反映していくとの説明だったので、出来上がる時には全く違うデザインになる可能性もあるのではないかという印象を受けた。

委員 プレゼンテーションも上手で、最初に提案書から受けた印象より随分良くなったが、提案書そのものにスマートさを欠いており、他者の提案を特別上回るものは感じなかった。

(採点)

会長 それぞれ意見を出していただいたので、これから各委員による採点を行いたい。

(各委員による採点)

(受託候補者の特定及び次点の選定)

会長 採点結果について事務局から説明をお願いします。

(事務局から集計結果について説明)

会長 採点の結果、最高点がA者、次点がD者になる。

採点結果に基づき、受託候補者及び次点の選定を行う。

受託候補者については、最も得点の高かったA者とし、次点は、2番目に得点の高かったD者を選定することとよいか。

(各委員より同意の意思表示)

会長 それでは、当審査会においては、A者を受託候補者に、D者を次点に選定することと決定する。

会長 本日予定された議題は全て終了した。

(審査会講評及び会議録)

事務局 審査会講評と会議録については、会長と調整させていただいた上で、長崎市ホームページにおいて公表する予定にしている。